

# 子供が長期入院、親を支援

## 宿泊施設を提供

### 札幌に 団体設立

小児がんなどの難病の治療で地方に住む子供が都市部の大きな病院に長期入院する場合、その家族のために宿泊施設を安く提供し、精神的、経済的な負担を軽くすることを目指す市民グループ「北海道ファミリーハウス」(事務局・札幌市

中央区北5西6、山本克郎理事長)が設立され、17日から活動を始めた。入院中の子供の世話のために家族が病院近くにホテルやアパートを借りると、宿泊費だけでかなりの負担になる。東京の特定非営利活動法

人「ファミリーハウス」によると、全国にあるファミリーハウスは79施設・357部屋(昨年3月現在)。ボランティアが提供してくれた部屋などのほか、運営団体が部屋を借り上げて患者の家族に安く貸したり、病院が入院患者の家族を宿

泊させているものなどがある。札幌市北区の北大医学部付属病院や同市白石区の国立札幌病院の近くには既に1泊10000〜20000円で泊まることができ施設があり、道ファミリーハウスの松宮和男事務局長は

「当面はこれらの宿泊施設を紹介して、将来的には部屋の借り上げ、米国のファミリーハウスのマクドナルド・ハウスのような施設をつくりたい」と話している。余裕があれば、患者が大人の場合でも施設の紹介をする計画もある。

道ファミリーハウスは実際に運営にかかわる正会員と、寄付のみの賛助会員を募集している。問い合わせは同事務局(011・242・9151)ファクス兼用、月々金曜の午前10時〜午後4時)へ。

【野本みどり】